

令和7年度 研究報告書

過去と現代をつなぐ歴史総合の授業開発  
~小单元「大量生産・消費社会について考える」の場合~

令和6年度入学

熊本大学大学院 教育学研究科  
教職実践開発専攻 教科教育実践高度化コース  
248-A9721 後藤魁人

令和7年度 研究報告書

過去と現代をつなぐ歴史総合の授業開発  
~小单元「大量生産・消費社会について考える」の場合~

指導教員

竹中伸夫 准教授

藤瀬泰司 教授

令和6年度入学

熊本大学大学院 教育学研究科

教職実践開発専攻 教科教育実践高度化コース

248-A9721 後藤魁人

## 目次

### 研究報告書要旨

頁

序章	1
第1章 歴史と現在のつなぎ方	3
第2章 研究授業の実際	6
2-1 研究授業の概要	
2-2 研究授業の詳細	
2-3 研究授業の評価と振り返り	
2-4 研究授業の反省	
第3章 改善授業の開発	19
3-1 授業改善の方向性	
3-2 改善授業の概要	
3-3 改善授業の詳細	
第4章 研究の成果と課題	35
終章	36
巻末資料 研究授業発話記録	

過去と現在をつなぐ歴史総合の授業開発  
～小单元「大量生産・消費社会について考える」の場合～

熊本大学大学院教育学研究科  
教職実践開発専攻 教科教育実践高度化コース  
248-A9721 後藤魁人

報告書要旨

この研究では、高等学校歴史総合の授業において「現代と歴史をつなぐ」ことを要点とする授業開発を行う。歴史の学習を通して現代社会にとって有用な資質・能力を育成したり、現代的諸課題を扱ってその原因を歴史から探ろうとしたりすることが歴史総合の目標を達成するために必要だと考える。現代的諸課題を授業に盛り込むことで、現代社会の構造を歴史的事象から探ることを行う。そして、歴史的事象を理解し、その反省や学習成果をもって、これからの社会に活かすことを目指すのが本研究・実践のねらいである。

本研究では、高等学校「歴史総合」の分野において、現代的諸課題を用いて歴史的事象と現代をつなぎ、課題の認識と解決に向けた考察をする授業を開発することを目的としている。研究の背景には、高等学校学習指導要領(平成30年告示)において、歴史総合の目標が『グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す』と規定されたことにある。歴史総合の特徴のうち、「現代的諸課題の形成に関わる歴史的事象」を中心に内容が編成されていることに注目した。この特徴は、歴史と現在をつないで学習ができることを示しており、歴史と現在をつなぐ話題として現代的諸課題がまとめられている。歴史と現代をつなぐことを意識した授業開発は、歴史総合、ひいては社会科の目標の達成に寄与するような授業になると考えた。

本研究の「現代と歴史をつなぐ」ことの定義を示す。学習する单元と現代社会が抱える課題を一致させて授業を展開することと、歴史上の一地点と我々が生きている現代社会が同じ様相を持っていることを示すことを「現代と歴史をつなぐ」こととしている。

本研究では、イギリス産業革命と社会問題を取り扱った授業①と、1920年代のアメリカを舞台に小单元「大量生産・消費社会」を編成した授業②の2つの授業を開発した。授業①は、イギリス産業革命と産業革命によって引き起こされた社会問題を説明し、問題の解決に向けて学習者がどのような対応をしていくのかを検討する形式をとった。授業時数は1時間である。授業①の「現代と歴史をつなぐ」の方針は、学習する单元と現代社会が抱える課題を一致させて授業を展開することである。授業①では産業革命によって到来した社会の2つの側面について示し、とくに現代に残る社会問題について説明を行った。そののち、社会問題の解決に向けて学習者に対策を問い、それを記述してもらった。この授業では、労働問題や環境問題を学習者に示すことはできていたものの、問題の解決に向けた

学習者による考察に時間をかけすぎてしまい、歴史と現代の接続を十分に示すことができていないという課題が残った。

授業①の反省を受けて授業改善をおこなった。消費社会について考えさせるための単元として「1920年代のアメリカ」を設定し、「行き過ぎた商業主義」と絡めた授業開発を行った。授業②の「現代と歴史をつなぐ」方針は歴史上の一地点と我々が生きている現代社会が同じ様相を持っていることを示すことである。消費社会の構造について示したのち、過剰な消費に対して私たちはどう向き合うべきかを検討した授業である。この授業は実習校などで実施することができなかった。

本研究の意義は、歴史総合の特色を存分に活かした授業開発を行うことができた点である。近現代の歴史を通史的に学ぶだけではなく、歴史的事象と深くかかわる現代的諸課題を授業に組み込むことで、歴史と現代のつながりをより強く示すことができた。現代的諸課題を起点として、私たちがいま生きている社会や文化が一体いつから始まったのか、100年前の社会と現代社会の共通点をもって歴史と現代のつながりとすることができた。

「現代と歴史をつなぐ」は、「現代と歴史には共通点がある」ということを示すだけでは足りない。社会ができた要因やその特徴をおさえ、それらによって形成された文化が私たちの生きている現代社会でも残っている。このことを明らかにできたのは、歴史総合で現代と歴史をつなげた授業を作ったからである。

一方で、本研究の課題は2つあり、1つは歴史総合のもう一つの特徴である「日本史と世界史の両方が編成されている」という特徴を活かせていないことである。一つの事象を徹底して掘り下げて、現在とつなげることが本研究の要点であるが、他方で日本史と世界史の両面を活かしたヨコの広がりあまりこの授業で活かされていない。消費社会の形成は日本と世界の国々で時代も様子も異なる。この違いについては授業内で十分に触れることができなかったため、この研究での反省点といえる。もう一つは歴史的事象自体を深く掘り下げることができていないことである。消費社会という側面に対し、私たちがどのような対応をとることができるかを明らかにする授業を提案できた一方で、歴史的事象を掘り下げる時間を十分に取れなかった。歴史の授業なのに、歴史を学ぶ時間が全体の半分しかないという状況になってしまった。

## 序章

この研究では、高等学校歴史総合の授業において「現代と歴史をつなぐ」ことを要点とする授業開発を行う。歴史の学習を通して現代社会にとって有用な資質・能力を育成し、現代的諸課題を扱ってその原因を歴史から探ろうとする授業を目指す。

本研究は、高等学校「歴史総合」の分野において、現代的諸課題を用いて歴史的事象と現代をつなぎ、課題の認識と解決に向けた考察をする授業を開発することを目的としている。研究の背景には、高等学校学習指導要領(平成30年告示)において、歴史総合の目標が『グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す』と規定されたことにある。加藤(2023)は、『歴史教育とは児童・生徒(子ども・青年)を歴史認識の主体として成長させ、そのことによって有為な公民(市民・主権者)に育てることである。』と指摘しており、歴史総合における内容の編成は教師が学習者の実態を鑑みて設定する必要がある。内容の編成にあたっては、歴史学習の成果を、公民としての資質・能力につなげる必要がある。そこで、歴史総合の特徴を授業に活かすことにした。歴史総合の特徴のうち、「現代的諸課題の形成に関わる歴史的事象」を中心に内容が編成されていることに注目した。この特徴は、歴史と現在をつないで学習ができることを示しており、歴史と現在をつなぐ話題として現代的諸課題がまとめられている。歴史総合の特徴である、現代的諸課題を授業に取り入れれば、現代と歴史の接続を示すことが可能なはずであるし、現代社会の課題を歴史的事象から探ったり、歴史的事象を学んだことによる教訓を現代社会に活かしたりすることができる。現代的諸課題を用いて、歴史と現代をつなぐことを意識した授業開発は、歴史総合、ひいては社会科の目標の達成に寄与するような授業になると考えている。

先行研究として、野々山(2023)の実践を取り上げる。野々山(2023)は、歴史総合の授業開始に先立って「『なぜ歴史を学ぶのか』学習開始前アンケート」を取っており、「過去と現在は繋がるのが過去を学びこれからにつなげていくため」といった過去と現在の連続性を指摘できる生徒が少ないことに気づいている。アンケートの結果を受けて、通史的な学習を行うよりも、現代的諸課題をベースに、それに関わる学習内容を編成し、単元としている。(表参照) また、この単元の最後の時間に用意されているパフォーマンス課題は、「産業革命から現在に至るまで進展している工業化は、私たちの生活を豊かにしているのだろうか」という単元の問いに対して自分の考えを表現するというものである。パフォーマンス課題自体は歴史と現代の接続を問う問題であり、歴史と現在の連続性を示す単元構成を目指している。

表 野々山実践(2023)

『工業化の進展は私たちの生活を豊かにしたんじゃないかったの?』単元計画

	単元「工業化の進展は私たちの生活を豊かにしたんじゃないかったの?」	扱うキーワード
1	工業化の進展は私たちの生活を豊かにしたんじゃないかったの?	相対的貧困
2	産業革命は豊かさを与えたのだろうか?	産業革命
3	イギリスの自由貿易は豊かさを与えたのだろうか?	アヘン戦争、自由貿易
4	植民地支配に伴う工業化は豊かさといえるのだろうか?	南北戦争、インド大反乱、インド帝国の成立
5	日本の産業革命は豊かさを与えたのだろうか?	アジア間貿易、殖産興業、日清戦争、産業革命
6	工業化の進展は貧困の拡大をもたらしているのだろうか?	社会主義
7	パフォーマンス課題	平等・格差

野々山(2023)の実践では、現代的諸課題を「経済格差」として、全7時間の単元を構成している。現代的諸課題の内容に即して学習内容を編成することで、歴史的事象を焦点化し、詳しく理解させることができている。しかし、このような単元編成では、歴史的事象を深く理解することにとどまってしまっている。歴史の学習を通して現代社会にとって有用な資質・能力を育成という点まで踏まえていない。

歴史的事象の学びを、現代社会に活かそうという姿勢だけではなく、歴史的事象と現代社会の共通点を示し、「歴史と現代はつながっている」ことを明らかにすることで、学習者にとって歴史を学ぶ意義を現代に見出すことが必要ではないだろうか。歴史の学習を通して現代社会にとって有用な資質・能力を育成できるような授業開発を本研究では目指していく。

## 第1章 歴史と現代のつなぎ方

2022年度より、新しい科目である「歴史総合」の学習が始まった。高等学校学習指導要領(平成30年告示)によると、『社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。』という目標が掲げられている。また、育成する資質・能力のうち、『(1)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。』というものが示されている。このうち、『(前略)…現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史…(後略)』という点に注目した。歴史総合は近現代の歴史的事象のうち、現代的諸課題の形成に関わるものが中心に取り扱われている。すなわち、歴史総合の内容は現代社会につながるものが多く含まれているということである。歴史総合の特徴を活かし、科目の目標を達成するために、現代的諸課題の活用を踏まえた授業開発の方針をとった。

星・渡部(2025)は、『歴史教師は数ある歴史の対象の中からどれをどのような視座や解釈で持って取り上げるかを選択しなければならないが、それらの選択は教育の狙いに準ずる』と指摘している。教師自身が高等学校学習指導要領などを参考に、授業を通して成長した学習者の姿を思い描き、それを達成するように授業づくりに励む必要がある。私は、歴史総合の目標を達成するために、現代的諸課題を活用した授業開発を行い、授業の展開方針として「歴史と現代をつなぐ」をとることにした。

星・渡部(2025)は、「現代につなぐ歴史授業デザイン」の類型(表1)を作成している。これによると、『現代社会の問題を引き起こす近代的な価値観や偏見の歴史的背景を理解する』という項目がある。この項目は、私たちの経済的合理性を迫及したり、具体よりも抽象的な思考を好んだりといった西洋の近代的な価値観の影響を強く受けているとし、こうした価値観を問うことで様々な社会問題を解決する一助にしようとする授業デザインである。本間(2025)(表1-2)は実践において、『生徒が歴史は自分から遠いものではなく自分自身が歴史を生きている感じるためには、生徒による歴史の「自分ごと」化が不可欠であろう』と授業の方針を示している。本間(2025)の実践では、「生徒の内なる帝国主義」を明らかにするために新型コロナウイルス流行時のアジア人に対する差別的発言と、関東大震災時における朝鮮狩りを関連させた授業を行っている。現代社会で起きた課題と呼べる事象と同じ説明が可能な歴史的な事象を比較することで、学習者の「内なる帝国主義」があることを導こうとしていた。本間の実践では、歴史的な事象と現代社会が抱えている課題を一致させるという「歴史と現代をつなぐ」方法をとっている。この方針にのっとり、本研究の授業開発を進める。

近現代の歴史という現代社会とのつながりがそれなりに見られる場面では、現代社会の形成の過程を追うことで私たちが生きている社会の特徴や課題を知ることができる。そして、学んだことを自身が実際に生きている社会に活かすことができる。歴史総合で育むべき資質・能力のうち、『(3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。』というものがある。このうち、『(前略)…よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、…(後略)』という側面に注目して、このような学習者の態度は、近現代の歴史的事象を現代社会とつなげることによって育むことができると考える。歴史総合という科目において、「歴史と現代をつなぐ」ことは、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うために必要である。

本研究では、「現代社会の問題を引き起こす近代的な価値観や偏見の歴史的背景を理解する」ことをねらいとして「現代と歴史をつなぐ」ことを目指す。現代と歴史のつなぎ方に関しては、本間(2025)の実践に見られるような「学習する単元と現代社会が抱える課題を一致させる」という手法を用いる。

表 1-1 現代につなぐ歴史授業デザイン(抜粋)

過去と現代の関係づけ	ねらい
①近代理解	現代社会の問題を引き起こす近代的な価値観や偏見の歴史的背景を理解する
②現代の来歴	現代社会の問題や課題の歴史的背景を理解する
③現代(近代)の相対化	近代の当たり前を問い直すことで、近代社会とは異なる社会規範を構想したり、自らとは異なる他者を理解したりする
④記憶の倫理的責任	過去の不正義の記憶や継承の在り方を倫理的に判断する
⑤記憶の対立	過去の記憶の対立に対して意思決定をする
⑥歴史意識	私たちの歴史の見方を批判的に問い直す
⑦大衆社会の中の歴史	社会における歴史の用いられ方を理解する
⑧事例研究としての歴史	複数の事例から社会事象に対する普遍的な理解を得る

表 1-2 本間靖章の実践 生徒の「内なる帝国主義」と国際秩序の変化・大衆化(抜粋)

主な学習活動 ☆生徒の様子	○教師の支援 □評価の観点
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                         【課題】 私たちは「大衆」なのだろうか                     </div>	
<p>展開 1 新型コロナウイルス感染症流行下における、アジア人に対する差別的な言説に関する記事や関東大震災における朝鮮狩りの記事を用いた、「大衆化」における行動様式の振り返り</p> <p>☆ペアで協力しながら、資料を読み解き、自分たちの言葉で表現した</p>	<p>○生徒に複数の資料を提示し、「大衆化」における人々の行動という視点から、資料を読み解かせる。</p> <p>「大衆化とはどういった事象であったか自分の言葉で説明しよう」</p> <p>□資料の共通点を抽象化し、「大衆化」について言語化できている(知・技)</p>
<p>展開 2 国境なき医師団による報道の自由ランキングを題材にした考察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報道の自由度ランキングの特徴を読み取る</li> <li>・教員の問いをもとに、内化された価値観について考察する</li> </ul> <p>☆ペアワークで読み解きを行った後、自分の思考と向き合っていた</p>	<p>○指示を出して課題に取り組ませる</p> <p>○問いかけにより、「常識」や「当たり前」として内化されたフレームの暴力性に気づかせる</p> <p>□自分と向き合って考察することができている(思・判・表)</p>
<p>展開 3 問いの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冒頭で立てた問いが、「私にとっての国際秩序の変化・大衆化」を読み解く上で十分なものであったのかを自己評価する</li> </ul>	<p>○問いの省察の指示</p> <p>□単元の学びを通して、自らの視点をアップデートできているか(主)</p>

## 第 2 章 研究授業の実際

### 2-1 研究授業の概要

研究授業は、高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)の、内容 B「近代化と私たち」、「(2) 結びつく世界と日本の開国」について作成し、実教出版「詳述歴史総合」の、「6 イギリス産業革命」を取り扱う。

教科書紙面上では、「産業革命の前提条件」、「技術革新とエネルギー革命」、「産業社会の成立」という三項目で構成されている。イギリス産業革命という事象が発生する原因、動力やエネルギーの革新、社会の変化や産業社会の抱える課題について学ぶ項目である。また、教科書紙面上に掲載されている史料には、「**6** ロンドンのスラム街」という名称の絵画史料や、労働者保護に関わる記述が掲載されている。この資料と題材を基に、産業社会の成立とその課題について考える授業を開発する。

研究授業では、現代的諸課題を「産業社会の成立と労働問題・環境問題」とした。これは、現代社会に残る過酷な労働問題や環境問題が、高校生にとってもわかりやすく考察しやすい問題であると考えたからである。環境問題については、産業社会の成立に伴って環境負荷をかけすぎてしまう側面がイギリス産業革命時点で現れている。そして、現代社会においても、豊かさを追求していく過程で環境に負荷をかけてしまう事例がある。労働問題については、イギリス産業革命の段階で労働に求める人材に変化があり、児童労働や過酷な環境での労働が横行するようになっていて、現代社会でも労働環境が改善されない実態がある。環境問題と労働問題の内実は時代が進むにつれて変化しているが、姿かたちを変えて問題は存在し続けている。このことから、研究授業で扱う現代的諸課題を「産業社会の成立と労働問題・環境問題」としている。また、現代社会でも知名度のある課題を取り上げて、歴史的事象と関連するような授業構成にすることによって、現代と歴史がつながることを学習者に示せるようにした。

### 2-2 研究授業の詳細

#### ●教授計画書

1：本時 「イギリス産業革命」（『詳述歴史総合』実教出版 2021 44-45 頁）

2：MQ と MA

MQ	産業社会としての現代はどのような課題を抱えているのだろうか。
MA	産業社会としての現代は、18 世紀後半の産業革命からその基盤が作られ、

	現代に進むにつれてどんどんと工業化が進むことによって構成された。しかし、工業化の進展に伴って環境負荷、労働問題、それまでの習慣の消滅といった社会問題や社会構造の変化がみられた。とくに、環境負荷や労働問題は現代にも残る問題となっており、どのように対応していくかを考える必要がある。
--	---

3：授業展開過程(○…メインクエスト)

過程	教師の指示や発問	教授学習活動	資料	生徒に習得させたい知識 予想される答え
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画像を見て、これほどのような様子が写されたものだろうか</li> <li>・どうしてチョコレートが大量に売れ残るほどお店に置かれているのだろうか</li> <li>・メーカーが商品をたくさん作るには何か理由があるはずである。いったいなぜだろうか。予想を立ててみよう</li> <li>○売れ残ってしまうほど商品が展開されているのはいったいなぜだろうか</li> </ul>	<p>T:発問する S:答える</p> <p>T:発問する S:考える</p> <p>T:発問する S:考える</p> <p>T:発問する S:答える</p>	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チョコレートが売られている</li> <li>・売れ残りではないか</li> <li>・売れると思っていたから</li> <li>・たくさん売ることができれば、それだけ利益を得ることができるから。</li> <li>・メーカーが商品を大量に作ってしまっているから売れ残るほど展開されている</li> </ul>
展開1 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物の売り買いについて、利益を出す方法について考</li> </ul>	<p>T:発問する S:答える</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・利益=売価-コスト</li> <li>・売価を高く、コストを低く抑えられれば利益は大きくなるだろう</li> </ul>

	<p>えてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・売価を上げるために、具体的にできることは何だろうか</li> <li>・コストを下げるために、具体的にできることは何だろうか</li> </ul> <p>○コストを下げる方法に注目して、利益を出すために、生産コストを下げることを意識しすぎるとどのような事が起きるだろうか</p>	<p>T:発問する S:答える</p> <p>T:発問する S:答える</p> <p>T:発問する S:答える</p>		<p>う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品そのものを高くする</li> <li>・広告を打って、たくさん買ってもらう</li> <li>・人件費/材料費をカットする</li> <li>・生産にかかる諸費用を減らす</li> <li>・労働環境を整備しないで、劣悪な環境で労働者を働かせる</li> <li>・労働者に低額の賃金しか払わない</li> <li>・環境負荷をかけすぎてしまう</li> <li>・社会問題の発生</li> </ul>
展開 2 10 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書「産業社会の成立」を読み、歴史的に産業社会が到来した当時起こった社会問題を整理しよう</li> <li>・資料「チョコレートの生産と社会問題」を読み、どのような社会問題が記載されているか確認しよう</li> </ul>	<p>T:発問する S:考える</p> <p>T:発問する S:読む</p> <p>T:発問する S:記録する</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・劣悪な労働環境で働かされている</li> <li>・大気汚染などの環境汚染</li> <li>・児童労働</li> <li>・環境破壊</li> <li>・児童労働</li> <li>・報酬が低価格</li> <li>・労働問題</li> <li>・環境問題</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の記述と授業資料で共通している部分はないか。ワークシートの③に記録しなさい</li> </ul> <p>○ものをつくるにあたって、現代社会ではどのような問題が起こりうるだろうか。</p>	<p>T:発問する S:共有する S:答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境汚染(土壌、地下水、地表水)</li> <li>・周囲に住む人々への健康被害</li> <li>・環境に対する配慮や労働環境に十分な注意を払われなければ、環境問題や労働問題に発展する可能性がある。日本ではあまり見られないが、世界各地では現在進行形で問題が起きている。</li> </ul>
展開3 15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちは、普段ものに恵まれている生活を送っているが、その背景にはどのような問題が潜んでいたのだろうか</li> <li>・バレンタインデーのチョコを送る文化を我々は楽しんでいるが、これはメーカーの思惑に乗せられていないだろうか</li> <li>・今、バレンタインデーを例に大量生産について考えた。このような例はバレンタインデー以外にも</li> </ul>	<p>T:発問する S:答える</p> <p>T:発問する S:答える</p> <p>T:発問する S:答える</p> <p>T:発問する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産量を上げるために、森林伐採を通してカカオ農場の拡大が図られている</li> <li>・低賃金で働く、児童労働などの労働問題</li> <li>・メーカーの創出したイベントに乗っかって、物をたくさん買ったり、消費したりしている。</li> <li>・メーカーに大量消費を仕向けられている</li> <li>・ホワイトデー、ハロウィン、おせち、恵方巻き</li> </ul>

	<p>うか。考えてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料「レアアースの採掘」を読み、内容を確認しなさい</li> <li>動画「あなたのスマホにも8グラム内蔵 コバルト採掘現場」を視聴する</li> <li>私たちは、メーカーの創出したイベントや行事に乗っかり、楽しんでいるが、これを今後も変わらず続けていきたいか。</li> <li>続けたい/続けたくない理由を周囲の人と話し合ってみよう</li> </ul>	<p>S：確認する S：共有する</p> <p>T：発問する S：視聴する</p> <p>T：発問する S：答える</p> <p>T：発問する S：考える S：共有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レアアースは私たちが用いている電子機器に含まれている一方、採掘には多大な環境負荷がかかる場合がある。</li> <li>採掘現場は過酷な労働現場である</li> <li>労働への対価は非常に低額である</li> <li>違法な採掘現場もみられる</li> <li>続けたい/続けたくない</li> <li>売れ残りが続けば、商品が余ってしまう</li> <li>環境に負荷をかけ続けることになってしまう</li> <li>大量生産社会のおかげで生活は豊か</li> <li>今の暮らしが良ければそれでよい</li> </ul>
<p>まとめ 10分</p>	<p>○産業社会としての現代にはどのような課題があるか。また、これからどうしたらよいかをワークシート4番に記述しなさい</p>	<p>T：発問する S：まとめる</p>	<p>産業社会としての現代は、18世紀後半の産業革命からその基盤が作られ、現代に進むにつれてどんどんと工業化が進むことによって構成された。しかし、工業化の進展に伴って環境負荷、労働問題、それまでの習慣の消滅といった社会問題や社会構造の変化がみられ</p>

				た。とくに、環境負荷や労働問題は現代にも残る問題となっており、どのように対応していくかを考える必要がある。
--	--	--	--	---

#### 4：授業資料

- ① 写真『バレンタイン商品半額』

(2026/1/9 最終確認)

- ② 「レアアースの採掘」([レアアースの生産と環境汚染 世界と日本が取り組む解決策と都市鉱山の活用を再確認しよう - HATCH | 自然電力のメディア](#)) (2025/7/2 最終確認)
- ③ 「チョコレートの生産と社会問題」([カカオによる森林破壊の問題 | チョコレートの舞台裏](#)) (2025/7/14 最終確認)
- ④ 動画『あなたのスマホにも8グラム内蔵 コバルトが抱える闇「いかさまだ」』 朝日新聞 (2025/7/21 最終確認)

## 授業資料② 「レアアースの採掘」

レアアースは、携帯電話や電気自動車、家電製品など先端技術製品の製造に欠かせない金属であり、「産業のビタミン」とも呼ばれる重要な資源です。しかし、その原料となる鉱石の多くには放射性物質が含まれており、鉱石の採掘や製錬に伴って多大な環境汚染が発生しています。…(中略)

具体的な用途の例としては、

- モーターの永久磁石
- HDD 用ガラス基板や液晶パネルディスプレイ用の研磨材
- 自動車の排ガス浄化用触媒
- LED などに使用される蛍光体
- レーザーの材料

などが挙げられ、ハイテク産業はもちろん、省エネ化や環境汚染防止などに貢献する環境産業にも欠かせない金属となっています…(中略)

レアアースの採掘と製錬に伴う環境汚染が問題となっています。

そもそも鉱物資源の採掘では、環境破壊や環境汚染を避けることはできません。地表を壊し削ることが必要となるので、その地の生態系は破壊されます。さらに、採掘過程で排出される化学物質が適切に処理されないと、土壌や地下水、地表水などの汚染に繋がります。また、レアアース鉱石は多くの場合、トリウム 232 やウラン同位体などの放射性物質を含有しており、その採掘や製錬の過程で放射性廃棄物が大量に発生します。そのため、廃棄物の厳重な管理が必須で、放射能汚染のリスクも常に付きまといまいます。…(中略)

出典：[レアアースの生産と環境汚染 世界と日本が取り組む解決策と都市鉱山の活用を再確認しよう -HATCH | 自然電力のメディア](#) (2025/7/2 最終確認)より

## 授業資料③ 「チョコレートの生産と社会問題」

ガーナでは、過去 30 年間で森林の 65%を失いました。…(中略)

### 森林破壊はなぜ起こるのか？

#### ガーナの森林減少の原因は？

ガーナの森林減少の原因は、カカオ生産、商業伐採、鉱山の採掘活動とされています。特に、森林のカカオ農園への転換については、背景にカカオ農家が十分な収入を得られていないことがあります。収入を増やそうとカカオを植え付けるために森林を切り開いてしまうのです。

#### 森林破壊が意味するところ

森林破壊は何を意味するのでしょうか？

大手のチョコレート企業はカカオと森林イニシアティブ (CFI) に参加し、森林破壊をなくし、荒廃した森林を回復させると公約していますが、未だに守られていません。

また、チョコレート企業はどこでどのように作られたカカオを仕入れているのか全てを把握できていません。**森林破壊を監視するためのシステム**も十分に導入されていないので、企業が仕入れたカカオが森林破壊をして作られたものであるかそうでないかわからないのです。…(中略)

#### 板チョコのお金はどこに行くのか？

カカオの生産は、その多くが家族経営の小規模農家によって行われていて、彼らは国連の定める 1 日 1 ドル 90 セントという国際貧困ライン以下で暮らしています。一方で、図のように板チョコの価格の 35%はチョコレート会社に、44%が小売業者に渡るのに対して、カカオ農家にはわずか 6%しか渡っていません。また、カカオは先物取引で取引されるため、需給のバランス以外にも、投資の対象として価格が大きく変動します。そのため、カカオ農家は収入を増やすために、森林を伐採して新たなカカオ農園を開いたり、子供に農作業を手伝わせたりしなければならないのです。

## 歴史総合 授業用プリント

氏名(            )

- ① メーカーが売れ残るほど商品を作るのには何か理由があるはずである。これはどのような理由によるものだろうか。予想を書いてみよう

- ② 動画/資料を読んで、どのようなことが描かれていたか。記録しなさい。

- ③ 18世紀ごろにみられた社会問題と現代社会の問題にはどのようなつながりがみられるだろうか。

- ④ 産業社会としての現代はどのような問題を抱えているか。また、これからどのような対策をとることができるだろうか。記述しなさい。

## 2-3 研究授業の評価と振り返り

授業①の実施後、ワークシートの設問に対する記入内容を用いて授業評価を行った。設問と評価基準は以下の通りである。

ワークシート：④ 産業社会としての現代はどのような問題を抱えているか。また、これからどのような対策をとることができるだろうか。記述しなさい。

### 資料 2- 評価基準

1. 私たちが生活している社会には課題があると考えていて、その課題解決に寄与するような向き合い方を判断できている →(模範解答例)：現代社会では劣悪な労働環境や低賃金などの労働問題を抱えている。その問題を解決するために、フェアトレード商品を買うことが考えられるが、フェアトレード商品を何度も買わないと、課題解決に寄与することができない。
2. 私たちが生活している社会には課題があると考えていて、その課題に対する自身の向き合い方を実現可能性をもって判断できている →(模範解答例)：現代社会は劣悪な労働環境や低賃金などの労働問題を抱えている。その問題を解決するために、今あるものを長期的に使う/現在行われている企業の取り組みなどを知る
3. 私たちが生活している社会には課題があると考えていて、その課題に対する自身の向き合い方を判断できている →(模範解答例)：現代社会は、劣悪な労働環境や低賃金などの労働問題を抱えている。その問題を解決するために SNS などを用いた問題の周知を行う/問題ではあるが、今の私の暮らしが良ければそれでよい
4. 私たちが生活している社会には課題があると考えているが、その課題に対する自身の向き合い方を判断できていない →(模範解答例)：現代社会は、劣悪な労働環境や低賃金など労働問題を抱えている

評価基準 1. について、これは、私たちが生活する社会には課題があることを、授業を通して理解できていること、そして、課題解決に向けた自身の向き合い方を考えている解答をこの位置づけとした。ただし、「フェアトレード商品を買ってみる/募金活動に参加してみる」といった解答は課題解決に寄与するような内容であるが、一度こなすだけでは効果が薄い。継続的に行わないと課題解決に向かわないことを示すことができなければ、評価基準 1. に到達できていないと判断している。

評価基準 2. について、これは、私たちが生活する社会には課題があることを、授業を通して理解できていること、そして、課題に対する自身の向き合い方を実現可能性をもって判断している解答をこの位置づけとしている。この段階の判断として、「フェアトレード商品を買う/募金活動に参加してみる」といった行動として起こせるものや、「物を長く使う/企業の取り組みを知る」といった意識的な取り組みについて、個人が実施可能な向き合い方を記述できている場合、評価基準 2. に到達していると判断している。

評価基準 3. について、これは、私たちが生活している社会には課題があることを、授業を通して理解できていること、そして、それに対する自身の向き合い方を判断している解答をこの位置づけとしている。この段階の判断として、現代社会が課題を抱えているのは理解できたが、その課題に対して前向きではない内容がある。例えば、「現代社会が課題を抱えていることは理解できたが、私の生活は豊かであればそれでよいのではないか」という課題解決に前向きではない解答はこの位置づけである。

評価基準 4. について、これは、授業を通して私たちが生活している社会には課題があることを理解できているが、それに対する判断を記述できていない場合、この位置づけとしている。

続いて、このワークシートの設問に対する学習者の記述は以下の分類である。評価基準、記述内容具体例、到達人数をそれぞれ示している。

評価基準	記述の具体的内容	到達人数 ※総数 121 人
評価基準 1. 私たちが生活している社会には課題があると考えていて、その課題解決に寄与するような向き合い方を判断できている	・到達者なし	0 人
評価基準 2. 私たちが生活している社会には課題があると考えていて、その課題に対する自身の向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェアトレード商品を買う</li> <li>・募金活動に協力する</li> <li>・SNS を用いて課題を周知する</li> <li>・物を長く使用する</li> </ul>	85 人

き合い方を実現可能性をもって判断できている		
評価基準 3. 私たちが生活している社会には課題があると考えていて、その課題に対する自身の向き合い方を判断できている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題ではあるが、私たちの生活が良ければそれでもよい</li> <li>・私たちの生活が脅かされるほど、課題とは感じられない</li> </ul>	20人
評価基準 4. 私たちが生活している社会には課題があると考えているが、その課題に対する自身の向き合い方を判断できていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会には環境問題/労働問題がある</li> </ul> ※未記入、設問の指示に乗っていない解答を含む	16人

記述内容から、研究授業に対して次のような考察ができる。それは、授業を通して「労働問題・環境問題」という現代的諸課題を学習者に十分示すことができているということである。評価基準 2. に到達した学習者は、研究授業を実施した 3 クラスあわせて 85 人と最も多い。記述の具体的内容についても、「フェアトレード商品を買う/募金活動に参加する」といった内容が非常に多く、課題に対する有効な対策を挙げていることがうかがえる。また、評価基準 3. についても、課題に対する自身の向き合い方を消極的な内容を含めて記述できている。私たちが生活する社会に対して、課題があることを示すことができていると考察できる。

現代的諸課題についての記述が多く見られた一方、歴史的事象に関わる記述は極端に少なかった。これは、授業構成が課題を示し、考える時間を大幅に割きすぎてしまい、歴史的事象の内容を扱う時間が少なすぎたことが原因である。また、労働問題や環境問題について考えることと、イギリス産業革命の結びつきが弱かったことも歴史的事象に関わる記述が少なかった原因であるとの指摘があった。授業①は、現代的諸課題を示し、それについて考える歴史要素の薄い授業となってしまった。

## 2-4 研究授業の反省

研究授業は、歴史要素がうすく、現代的諸課題を示し、それについて考察するだけの「総合的な探求の時間」のような授業となった。結果として、歴史的事象の理解を十分に育てておらず、現代に偏ってしまったことで、「歴史と現代をつなぐ」ことを十分に達成できなかった。

達成できなかった要因として第一に、1時間という限られた授業時間で現代について考える時間を設けすぎたことである。現代的諸課題を「産業社会と労働問題・環境問題」とし、これをイギリス産業革命と関連付け、このすべてを網羅的に扱おうとしてしまった。そのため、1時間の授業で一貫性を担保できておらず、課題と学習内容の関連性も薄かったために、「歴史と現代が地続きである」ということ十分に示せていなかった。また、1時間の授業内でも、現代的諸課題について考える、現代に目を向ける時間が非常に多かったため、学習者にとって歴史を見つめる時間が少なかった。授業改善の視座として、歴史的事象について学ぶ、考える時間を十分とることが挙げられ、教材と現代的諸課題についても検討する必要がある。

達成できなかった要因第二に、「労働問題・環境問題」の解決に重点を置きすぎたことがある。当初掲げていた「産業社会と労働問題・環境問題」のうち、問題に強く執着した結果、問題の解決が授業内で強く押し出されてしまった。ワークシートの設問は「産業社会としての現代はどのような課題を抱えているか。また、あなたはその課題にどのように向き合うか。記述しなさい。」という内容であり、産業社会の成立を理解しているかどうかを示していない内容となってしまった。ワークシートの設問から、産業社会が形成されていった過程とそれによって生まれた文化や課題について加味した記述を学習者に想起させられなかったため、内容が現れなかったのではないだろうか。課題の解決の前に、産業社会の成立とその弊害についてしっかりとした理解を育み、その前提をもって課題解決に向かわせるような授業を目指すことが授業改善の視座である。

ワークシートによる記述の分析と、「歴史と現代をつなぐ」を達成できなかった以上の要因から、改善授業のポイントを次のように掲げる。

- 取り扱う現代的諸課題と扱う学習内容を変更する
  - 「歴史と現在をつなぐ」手法を改める
  - 歴史的事象について学ぶ・考える時間を十分に取り、産業社会の形成とそれによって築かれた文化や課題について考えるような構成とする
- 以上の3点の具体的な内容や改善については次の章で記述する。

## 第3章 改善授業の開発

### 3-1 授業改善の方向性

研究授業の反省を受けて、授業改善をおこなう。授業改善の視点は以下の通りである。

○「歴史と現在をつなぐ」方法を、学習する単元と現代社会が抱える課題を一致させて授業を展開することから、歴史上の一地点と我々が生きている現代社会が同じ様相を持っていることを示す方法へ切り替える

○取り扱う現代的諸課題と扱う学習内容を変更する

○歴史的事象について学ぶ・考える時間を十分に取り、消費社会の形成とそれによって築かれた文化や課題について考えるような構成とする

授業改善にあたって、「歴史と現代をつなぐ方法」を切り替える。研究授業では、学習する単元と、現代社会が抱える課題を一致させることを主眼に置いた。しかし、ワークシートの記述などを観察すると、課題に対する問題意識や解決策に関する記述は多かったものの、歴史と現代をつないでいる記述は見られなかった。ワークシートの設問が現代と歴史の関係性を示す必要性を示唆できていなかったことも反省であるが、授業そのものの構成について、歴史と現代の接続を強く表すことができていなかった。そこで、改善授業では、歴史上の一地点と我々が生きている現代社会が同じ様相を持っていることを示すという方針に切り替える。私たちが生きている社会の構造や特徴が成立した過程を歴史に学び、社会が抱えている課題がどのように形成され、今日まで残り続けているのかを考察することを、「現代と歴史をつなぐ」歴史総合の授業開発の新たな方針とした。そのうえで、研究授業から授業の方針を変更する。

次に、「取り扱う現代的諸課題と扱う学習内容を変更する」ことについて、取り扱う現代的諸課題を「産業社会と労働問題・環境問題」から「行き過ぎた商業主義」とし、この中に労働問題や消費社会といった項目を含めるようにした。このように変更した理由として、現代社会は「産業社会」、「大量消費社会」の両側面を持っているが、「大量消費社会」という概念が、より高校生に密接な内容であると考えたからである。私たちの「消費」というごく当たり前の行動が、歴史的にどのように形成されてきたのかを考え、それによる弊害が起こりうることを考察するには意義があると考えたため、現代的諸課題のテーマを変更した。

また、「歴史的事象について学ぶ・考える時間を十分に取り、消費社会の形成とそれによって築かれた文化や課題について考えるような構成とする」について、私たちが生きている社会では、当たり前消費活動をしており、メーカーによって大量生産が行われ、私たちは様々な製品を消費して生活しているという一般的な構図がある。メーカーの製品を売りたいという意図が現代では様々な形で現れるが、このメーカーによる意図が生まれ始めたのが1920年代のアメリカに代表される大量生産社会である。大量生産・大量消費社会は現代

でも通ずるところであるし、消費に関する文化や弊害が生まれている。大量生産と消費社会の成立という歴史的事象についてしっかり考えるとともに、社会が形成されていく過程とその際に生まれた文化や課題の内容を中心に授業開発を行う。

### 3-2 改善授業の概要

研究授業を受けての改善授業は、「行き過ぎた商業主義」を題材に、大量生産や消費社会について考えるという方針である。改善授業は、三時間構成で、高等学校学習指導要領(平成30年告示)の、内容C「国際秩序の変化や大衆化と私たち」、「(2)第一次世界大戦と大衆社会」について作成し、実教出版「詳述歴史総合」の、「40 戦間期の欧米」を取り扱う。

第1次では、『チョコレート半額』の画像から、現代社会が大量生産社会であることを示し、私たちが大量生産社会で物の豊かな生活を暮らしていることを理解させる。その後、チョコレートに欠かせないカカオ生産農家についての資料を読み、私たちの豊かで楽しい生活がカカオ農家の犠牲の上で成り立っていることを示す。第1次では現代社会が豊かで楽しい社会である一方で、社会を支える人々が苦しい思いをしている側面があることを理解し、現代社会には無理している点があることをわかることを目的としている。

第2次では、1920年代のアメリカについて大量生産社会と消費社会の到来について学ぶ授業である。1920年代のアメリカでは、広告をうつことで製品を売り出す側面がある。これは、製品を売って利益を上げたいという点があり、また、物を持つことがステータスとなる社会が到来したことが要点である。広告をうつて製品を売り出す、消費を呼びかけて多くの人々に買ってもらうという文化が形成されたことを受けて、消費社会の弊害について考える段階へつなげていく。1920年代のアメリカを象徴する「T型フォード」を用いて、当時の社会を生きる人々にとって決して購入が容易なものではないが、多少の無理をしても購入するという、「身の丈に合わない消費」が行われるようになったのである。大量生産・大量消費社会となったことで、「身の丈に合わない消費」がT型フォードのみならず、あらゆる製品に派生し、現代社会でも消費が行われ続けていることを理解させることが第2次の目的である。

第3次では、私たちの消費や購入に対する意識について考える授業である。現代社会の大量生産・大量消費に対して、私たちは、メーカーの創出したイベントに乗っかって楽しんだり、自制心を効かせて消費を抑えたりする側面がある。再びチョコレートを題材にして、スーパーマーケットで変える一般的なチョコレートに代表される「企業努力によって極限まで価格が抑えられた製品」、フェアトレード製品に代表される「労働問題の解消に向けた正当な分配を目指す製品」、ブランドチョコに代表される「伝統やプレミアム感を持つ製品」のそれぞれの製品が価値を持っていることを示す。各製品が持っている価値について、私たちは購入を通してのみ、価値を支えることができることを理解させ、「私たちは買うことで社会にある価値を維持・変革できる」という結論にもっていくことが第3次の目的である。

### 3-3 改善授業の詳細

#### ●第1次

1：本時 「40. 戦間期の欧米」 （『詳述 歴史総合』144-145頁）

2：MQとMA

MQ	チョコレートの大量消費を例に、現状と課題は何だろうか。
MA	メーカーは製品の大量生産を行い、大量消費を喚起するためにイベントの創出や広告をうつなどの行為を行っている。消費が喚起されるなかで、私たちは様々なイベントを楽しんでいるが、私たちのそうした生活の裏には、困っている人々ややりすぎている側面がみられる。

3：授業展開過程(○…メインエスジョン)

過程	教師の指示や発問	教授学習活動	資料	生徒に習得させたい知識 予想される答え
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画像『チョコレート半額』を見て、どのような状況がうつされているか。話し合ってみよう</li> <li>・なぜチョコレートは半額で売られているのだろうか</li> <li>・半額で売られるほど、チョコレートが余っているのはなぜだろうか</li> <li>・チョコレートが余るほど作られているのは、何か理由があるはずである。どのような理由が考えられるだろうか。予想してみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>T：発問する S：答える</li> <li>T：発問する S：答える</li> <li>T：発問する S：答える</li> <li>T：発問する S：答える</li> </ul>	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チョコレートが半額となっている</li> <li>・売れ残りが安く売られている</li> <li>・売れ残っているから</li> <li>・たくさん作られているから</li> <li>・たくさん売ることによって利益を上げたい</li> <li>・大量に生産したものを売ってしまいたい</li> </ul>

	よう			
展開①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チョコレートを売るために広告がうたれることについて考えてみよう。広告をうってチョコレートが売買されるケースを挙げてみよう</li> </ul>	<p>T：発問する S：答える</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・バレンタインデー</li> <li>・ホワイトデー</li> <li>・ハロウィン…</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのまま店に並べるよりも、広告やイベントを作って売り出すのはなぜだろうか</li> </ul>	<p>T：発問する S：答える</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの商品売るため</li> <li>・多くの人の目にふれるようにするため</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メーカーによるイベントの創出や広告は数多く作られている。私たちはこれらに乗っかりながら、これからも生活していきたいだろうか</li> </ul>	<p>T：発問する S：答える</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しいので、生活を続けていきたい</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バレンタインデーでは、友チョコや自分チョコといった売り出し方がされる。これはメーカーによる売り方としてはどうか</li> </ul>	<p>T：発問する S：答える</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・友チョコや自分チョコは売り方としてやりすぎている</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○私たちでもついでいけないイベントが世の中には多くある。メーカーによる戦略に私たちはついていけないだろうか。意見を出してみよう</li> </ul>	<p>T：発問する S：答える</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しいから多少無理してお金を出してでも楽しむ</li> <li>・ついていけないため、節制をする必要がある</li> </ul>

展開 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チョコレートには「フェアトレードマーク」のついた商品がある。これは何を目的とした商品だろうか</li> </ul>	T：発問する S：答える	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な値段で取引をすることで、公正、公平な取引を実現する仕組み</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ、フェアトレードを目的とした商品が市場で流れているのだろうか</li> </ul>	T：発問する S：答える		<ul style="list-style-type: none"> <li>・カカオ農家にも利益を分配するため</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「フェアトレードマーク」のついた商品を意識して購入する人は日本にどれくらいいるのだろうか。図資料より読み取りなさい</li> </ul>	T：発問する S：答える	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米諸国では浸透している</li> <li>・西洋諸国に比べると、日本ではあまり浸透していない</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献資料『カカオ栽培と課題』を読み、世界のカカオ農家が抱えている課題を挙げなさい</li> </ul>	T：発問する S：答える	④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低賃金労働</li> <li>・児童労働</li> <li>・過酷な労働環境</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カカオ農家は低賃金や過酷な労働環境といった条件の中でも、生活のために働いている。これは私たちの生活とどのような関わりがあるだろうか</li> </ul>	T：発問する S：答える		<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちがイベントに乗っかって、低価格のチョコレートの大量生産や大量消費に付き合うと、フェアトレード商品の理念を叶えることはできない</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○私たちの生活とカカオ農家の生活との関わりを考察しなさい。</li> </ul>	T：発問する S：答える		<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの生活はカカオ農家の犠牲の上に成り立っている</li> </ul>

まとめ	・本時のまとめ	T：発問する S：答える		・メーカーは製品の大量生産を行い、大量消費を喚起するためにイベントの創出や広告をうつなどの行為を行っている。消費が喚起されるなかで、私たちは様々なイベントを楽しんでいるが、私たちのそうした生活の裏には、困っている人々ややりすぎている側面がみられる。
-----	---------	-----------------	--	--

#### 4. 授業資料

##### ① 画像史料『バレンタイン商品半額』

出典

<https://reiwajpn.net/wp-content/uploads/2022/02/%E3%83%90%E3%83%AC%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%81%E3%83%A7%E3%82%B3%E3%83%AC%E3%83%BC%E3%83%88%E5%8D%8A%E9%A1%8D.jpg> (2026/1/9 最終確認)

② 画像史料『フェアトレードマーク』

https://styletable.jp/wp-content/uploads/2025/04/img\_logoptn\_fairtrade\_01.jpg  
(2026/1/9 最終確認)

③ 図資料 『フェアトレード商品の普及率』

出典 [https://www.cuc.ac.jp/om\\_miraitimes/column/u0h4tu0000002hpb-img/s13\\_004.jpg](https://www.cuc.ac.jp/om_miraitimes/column/u0h4tu0000002hpb-img/s13_004.jpg)  
(2026/1/9 最終確認)

#### ④授業資料 「チョコレートの生産と社会問題」

ガーナでは、過去 30 年間で森林の 65%を失いました。…(中略)

##### **森林破壊はなぜ起こるのか？**

##### **ガーナの森林減少の原因は？**

ガーナの森林減少の原因は、カカオ生産、商業伐採、鉱山の採掘活動と言われています。特に、森林のカカオ農園への転換については、背景にカカオ農家が十分な収入を得られていないことがあります。収入を増やそうとカカオを植え付けるために森林を切り開いてしまうのです。

##### **森林破壊が意味するところ**

森林破壊は何を意味するのでしょうか？

大手のチョコレート企業はカカオと森林イニシアティブ (CFI) に参加し、森林破壊をなくし、荒廃した森林を回復させると公約していますが、未だに守られていません。

また、チョコレート企業はどこでどのように作られたカカオを仕入れているのか全てを把握できていません。**森林破壊を監視するためのシステム**も十分に導入されていないので、企業が仕入れたカカオが森林破壊をして作られたものであるかそうでないかわからないのです。…(中略)

##### **板チョコのお金はどこに行くのか？**

カカオの生産は、その多くが家族経営の小規模農家によって行われていて、彼らは国連の定める 1 日 1 ドル 90 セントという国際貧困ライン以下で暮らしています。一方で、図のように板チョコの価格の 35%はチョコレート会社に、44%が小売業者に渡るのに対して、カカオ農家にはわずか 6%しか渡っていません。また、カカオは先物取引で取引されるため、需給のバランス以外にも、投資の対象として価格が大きく変動します。そのため、カカオ農家は収入を増やすために、森林を伐採して新たなカカオ農園を開いたり、子供に農作業を手伝わせたりしなければならないのです。

出典：[カカオによる森林破壊の問題 | チョコレートの舞台裏](#) (2025/7/21 最終確認)

●第2次

1：本時 「40. 戦間期の欧米」（『詳述 歴史総合』 144-145頁 ）

2：MQ と MA

MQ	広告をうって消費を喚起することはいつから始まったのだろうか
MA	1920年代のアメリカにおいて大量生産社会が到来した。消費の喚起を行うことで製品の購入を促進していた。製品を持っていることはステータスとなり、「持っていなければならない」という意識が購入や消費を促進させることにつながった。民衆は身の丈に合わない行為や買い物を仕立てられることとなり、大量消費社会の形成に伴って、あらゆる製品に派生した。

3：授業展開過程(○…メインクエスト)

過程	教師の指示や発問	教授学習活動	資料	生徒に習得させたい知識 予想される答え
導入	・みんながごく当たり前に持っているものとして何があるだろうか			・家電や車…
展開①	<p>・1920年代のアメリカでは、広告により民衆に訴えるような行為が多く見られた。画像史料『電気冷蔵庫の広告』を見て、何を訴えているのかを読み取ってみよう</p> <p>・このような広告には、どのような効果があるだろうか。考察してみよう</p> <p>・1920年代のアメリカにおいて、広告をうつことにはどのような</p>	<p>T：発問する S：答える</p> <p>T：発問する S：答える</p> <p>T：発問する S：答える</p>	①	<p>・「食べ物は大丈夫か？」と訴えている</p> <p>・電気冷蔵庫を用いることで安全に食品を管理できる</p> <p>・冷蔵庫が無ければ食品を安全に保管することができないことを人々に示すことができる</p> <p>・製品の購入促進</p> <p>・民衆に普及させるため</p>

	<p>意味があったのだろうか。予想してみよう</p> <p>・教科書 p.145 の『1920年代のアメリカ』から、広告をうつことの意味を探し出しなさい</p> <p>・「移民や労働者に白人中産階級の規範を受け入れることを迫る」とはどういうことだろうか。広告やイベントの創出によって規範を受け入れることを迫る例は何かないだろうか</p> <p>○1920年代のアメリカから始まった広告の文化は消費者に対して何を求めたのだろうか</p>	<p>T：発問する S：答える</p> <p>T：発問する S：答える</p> <p>T：発問する S：答える</p>		<p>・移民や労働者にも白人中産階級の規範を受け入れること迫る</p> <p>・流行のものとして紹介されれば、物を持っていることがステータスとなる</p> <p>・広告によって大量生産されたものの消費を促すという、大量生産、大量消費社会が到来した。しかし、消費を促進させること以上に、消費を強要する側面が強まり、文化や製品を受け入れさせようとする動きがみられるようになった</p>
展開②	<p>・1920年代のアメリカにおいて、大量生産を象徴するものとしてT型フォードがある。T型フォードは当時の人々にとってどの</p>	<p>T：発問する S：答える</p>	②③	<p>・月の給料を何か月分の費やして買うもの</p> <p>・性能はよく、当時の社会ではそれなりに盛り上がった</p>

	<p>ような代物だったの だろうか。映像資料 『T 型フォードの生 産と消費』を視聴し考 察しなさい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ T 型フォードは決して手に入れやすい代物というわけではなかった。しかし、当時の人々は何とかしてこれを手に入れようとしたのである。これはなぜか</li> <li>・ 製品を買うことでステータスを示すことが 1920 年代のアメリカでできるようになったのはなぜだろうか</li> <li>・ ステータスのランクアップをしたり、生活をより豊かにするための消費が喚起されたりするなど、現代社会ではごく一般に消費の機会の創出が行われる。チョコレートを題材に、考えてみよう</li> </ul>	<p>T：発問する S：答える</p> <p>T：発問する S：答える</p> <p>T：発問する S：答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持っていることがステータスとなるから</li> <li>・ 大量生産が可能な社会となり、お金を出しさえすれば、誰でも購入できるようになったから</li> <li>・ バレンタインデーやホワイトデーに代表される、お菓子の大量消費を呼びかけるイベントの創出</li> <li>・ 高級志向の製品などによる製品への箱の付け方</li> </ul>
--	---	---	---

	○消費の喚起によってどのような文化が形成されてきたのだろうか	T：発問する S：答える		・大量生産社会が到来したことで、消費の喚起が行われるようになった。消費を喚起することで、身の丈に合わない消費をすることで自らのステータスをランクアップさせたり、製品の大量消費を仕掛けるために、バレンタインデーを代表とするようなイベントや風習の創出が行われるようになったりした
まとめ	・本時のまとめ	T：発問する S：答える		・1920年代のアメリカにおいて大量生産社会が到来した。消費の喚起を行うことで製品の購入を促進していた。製品を持っていることはステータスとなり、「持っていない」という意識が購入や消費を促進させることにつながった。民衆は身の丈に合わない行為や買い物を仕立てられることとなり、大量消費社会の形成に伴って、あらゆる製品に派生した。

#### 4. 授業資料

##### ①画像史料 『電気冷蔵庫の広告』

出典 <https://1450v.alamy.com/450v/exr860/1920s-usa-general-electric-fridges-magazine-advert-exr860.jpg> (2026/1/9 最終確認)

##### ②画像史料 『T型フォード』

出典  
<https://th.bing.com/th/id/OIP.p9vGlVyprA2nH5pmt3E54gHaFV?w=270&h=195&c=7&r=0&o=7&pid=1.7&rm=3> (2026/1/9 最終確認)

##### ③映像資料 『アメリカの移動手段に革命を起こした T 型フォード誕生の物語 | 「Part1 : ②」 ザ・リーダーズ ～車で世界を変えた男たち』

出典 <https://youtu.be/QkbiLOtXl4s?si=O-Z-f06JLntkPQ8p> (2026/1/9 最終確認)

●第3次

1：本時 「40. 戦間期の欧米」（『詳述 歴史総合』 144-145頁 ）

2：MQ と MA

MQ	消費社会に対して、私たちができることは何だろうか
MA	私たちは大量生産・大量消費社会で生きており、メーカーによって生産されたものを大量に消費するというサイクルに乗っかっている。この社会構造に対し、製品が持つそれぞれの価値を見極め、私たち自身が購入することで価値を支えることができる。消費による社会参加を通して、社会にある価値を維持・変革することができる

3：授業展開過程(○…メインエスジョン)

過程	教師の指示や発問	教授学習活動	資料	生徒に習得させたい知識 予想される答え
導入	・私たちは、普段生活する中で、とめどない消費の促進を受けている。その具体例を振り返ってみよう	T：発問する S：共有する		・バレンタインデーやホワイトデーに代表される、お菓子の大量消費を呼びかけるイベントの創出 ・高級志向の製品などによる製品への箔の付け方
展開①	・私たちは常日頃から生活のために、物を買うことを行っている。物を買う目的について考えてみよう  ・生活必需品ではないが、私たちは物を買う場合がある。これはどのような場合があるだろうか	T：発問する S：考える		・生きるために生活必需品を購入する ・生活を豊かにするために、生活必需品ではないが、物を購入する  ・流行のものと紹介されて、興味が沸き起こり、購入する ・現代社会を生き抜く上では必要

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メーカーによってより便利でより魅力的な商品が出たら、買ってしまいかもしれない。これはなぜだろうか</li> </ul> <p>○私たちの物を買うことに対する姿勢をまとめてみよう</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・メーカーによる広告やイベントの創出の影響で多くの人々に知れ渡り、製品に惹かれ、購入するから</li> <li>・生きるために生活必需品を購入する</li> <li>・生活を豊かにするために、生活必需品ではないが、物を購入する</li> </ul>
展開②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちは生きるため、生活を豊かにするためだけに物を買う以外にも、製品を購入することがある。具体的事例は何だろうか</li> <li>・私たちがフェアトレード製品の購入を行う意図は何だろうか</li> <li>・高級志向のチョコレート製品、フェアトレードチョコレート製品、一般的な低価格チョコレート製品の3つそれぞれを購入する意図は何だろうか</li> </ul>	<p>T：発問する S：考える S：共有する</p> <p>T：発問する S：考える S：答える</p> <p>T：発問する S：考える S：答える</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働問題を解決するために、フェアトレード製品を購入する</li> <li>・チョコレートの原料であるカカオ農家は、生きていくために児童労働や低賃金労働が起きている。それを解消するために、適正な賃金を提供するために買うという意図がある</li> <li>・高級志向のチョコレート製品は、伝統やおいしさ、プレミアム感を享受することができる</li> <li>・フェアトレードチョコレート製品は、労働問題解決のため、公正な分配に協力することが</li> </ul>

	<p>○私たちが消費社会に対して取り組めることは何だろうか</p>	<p>T：発問する S：考える S：答える</p>	<p>できる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的なチョコレート製品は、手に届きやすい価格帯でチョコレートを食べることができる</li> <li>・製品の購入によって、製品の価値を支持、変革することができる(消費による社会参加)</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめ</li> </ul>	<p>T：発問する S：答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちは大量生産・大量消費社会で生きており、メーカーによって生産されたものを大量に消費するというサイクルに乗っかっている。この社会構造に対し、製品が持つそれぞれの価値を見極め、私たち自身が購入することで価値を支えることができる。消費による社会参加を通して、社会にある価値を維持・変革することができる</li> </ul>

## 第4章 研究の成果と課題

本研究での成果は、歴史総合の特色である「現代的諸課題の形成に関わる歴史的事象が取り扱われている」という点を存分に発揮できたことである。歴史的事象同士のつながりを示すことはもちろん、歴史と現代のつながりを授業に組み込むことで、より歴史を学ぶ意義を示すことができた。

「現代と歴史をつなぐ」という研究全体を貫く方針は、学習者にとって歴史を学ぶ意義を示すべきであると考えていたからである。教科書を用いて通史を学ぶということはもちろん大事である。しかし、それだけではなくて、歴史総合の特徴を活かして、問いを表現したり、課題を追求することで解決策を導いたりするような学習活動もこれからは求められていくはずだ。そんな中で、本研究では消費社会の形成を歴史的事象から学び、大量生産・大量消費が抱える課題が私たちとどうかかわっているかを考察するという学習活動を授業内に組み込んだ。歴史総合の新たな授業像を提案できたことが成果である。

一方で、本研究では大きく二つの課題が残った。一つは歴史的事象の深い理解を達成できるような授業にできなかったことである。歴史総合は高等学校の必修科目であり、各歴史的事象の深い理解を育むことも求められる。しかし、本研究の「現代と歴史をつなぐ」という方針や、現代的諸課題を授業に活用することに固執し続けてしまい、つい現代に目を向ける時間が多くなってしまった。改善授業の方では、多少の内容を詰め込んだものの、それでも「歴史を取り扱う」時間が非常に少なくなってしまったことには変わらない。歴史の授業なのに歴史の要素が少なすぎるという問題を結局最後まで満足いくような改善ができなかった。この課題については、早急に解消できるように向き合っていきたい。

もう一つは、歴史総合の可能性を十分に発揮できなかったことである。歴史総合の特徴に「現代的諸課題の形成に関わる歴史的事象」が取り扱われていることと、「世界史と日本史の両方の歴史的事象が編成されている」という点がある。大量生産・大量消費社会の形成は、歴史総合の教科書だと1920年代のアメリカが取り上げられていることが多い。しかし、そのほかの国でも大量生産・大量消費社会は成立しているし、タイミングも成立の過程も異なる。国同士の比較といったヨコの広がりを考える学習活動の可能性を考慮できなかった。あらゆる可能性を想定して、社会科の目標・項目別の目標を達成するために本当に最良の授業開発だったかを吟味できていないという点がもう一つの課題点である。

研究全体を通して、歴史総合という科目には多くの視点が設けられており、多様な授業の作り方ができると痛感した。多様な授業の可能性を考えていなかったがゆえに引き起こした失敗も多かった。「現代と歴史をつなぐ」という授業開発の主目的はあらゆる手段の一つでしかないということを踏まえていないと、授業づくりが一辺倒になってしまう。本研究を歴史総合の授業の在り方と決めつけず、多様な在り方にアプローチできるように準備しておきたい。

## 終章

本研究では、「現代と歴史をつなぐ」ことを主眼に置いた歴史総合の授業開発を行った。歴史総合は生まれて間もない科目であり、現場では様々な工夫が凝らされている。野々山(2023)の実践では、歴史総合での学習内容を焦点化するために、現代的諸課題を用いた単元開発を行っていた。この方針にのっとり、現代的諸課題を用いて単元編成を行ったことで、「大量生産・大量消費社会」という概念を深め、課題に対する深い理解を涵養するような授業になったのではないだろうか。一方で、これに傾倒するがあまり、歴史総合なのに歴史を少ししかしないという失敗をする場面もあった。一つのやり方に固執し続けてはいけないと何度も反省した。

研究において、歴史総合の授業開発は、「学習者が歴史総合を学ぶ意義を明確にする」という姿勢を常に持って取り組んできた。現代的諸課題を示したり、「現代と歴史をつなぐ」方針を取ったりしたのは、歴史総合という科目で、歴史を学ぶ意義を見出すためだった。しかし、実践を通すことで、学習内容がいくら魅力的でも、授業内容だけで学習者を引き付けることはなかなか難しいことを学んだ。自分の生活に密接にかかわっている、これから生きていくうえで考えるには必要不可欠であるという点を考慮しないと、歴史的事象が過去のものにとどまってしまう。消費社会という社会の姿と、それに対する私たちの向き合い方について考えることは、自らの生活に密接にかかわっている内容であるし、歴史と現代の共通点がみられる項目としてまとめることができたのではないか。内容をもっと深めたうえで、いつか実践したい。

2025年度から歴史総合は大学入学共通テストの入試科目となり、ますます重要性が増す科目である。教科書を用いて通史を学ぶ・深く理解するということはとても重要な学びの在り方である。しかし、旧A科目から、内容の編成や教科書のデザインも大きく変わり、多様な学び方が生まれている。本研究を通して、歴史総合の多くの可能性・多様な在り方を考察できたのは私自身の大きな糧となった。研究で生じた課題点をしっかりと受け止め、現場に立った後も歴史総合と真摯に向き合い、より良い授業を作り続けたい。

## 謝辞

本研究の遂行にあたり、指導教官として終始多大な御指導を賜った、熊本大学教育学部社会科教育ゼミ竹中伸夫准教授に深く感謝いたします。同じく社会科教育ゼミ藤瀬泰司教授にも、研究報告書の作成にあたり数々の御助言をいただきました。深く感謝申し上げます。研究協力校である熊本県立A高等学校の先生方には、2年間という長い間にわたって、常に御支援いただき、様々な貴重な経験を積ませていただきました。深く感謝申し上げます。

本研究の遂行に関わってくださったすべての皆様、誠にありがとうございました。

## 参考文献

- 『高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)』 2017
- 『【地理歴史編】高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説』 2017
- 金子勇太 梨子田喬 皆川雅樹 『歴史総合の授業と評価 高校歴史教育コトハジメ』  
清水書院 2023
- 矢野仁恵 『中学校社会科歴史的分野における多面的・多角的に考察する力の育成を  
目指した授業実践』 山梨大学 2019
- 星瑞希 渡辺竜也 『現代につなぐ歴史授業デザイン』 明治図書 2025
- 中農晶三 『アメリカの広告倫理思想』 1972
- ロバート・C・アレン 『産業革命 起源・歴史・現在』 2024
- 木畑洋一 成田龍一 ほか 18 名 『詳述歴史総合』 2021
- 久保文明 中村尚史 ほか 12 名 『現代の歴史総合 みる・読みとく・考える』 2021

## 補足資料 研究授業発話記録

(号令)

T: スライドを見てください。この写真はいったいいつごろ撮られた写真だと思いますか。周囲の人と話し合ってみてください。

S: (話し合う)

T: それでは、少し聞いてみますね。お願いします。

S: 2/18

S: 2/15

T: ありがとうございます。きっと、バレンタインデーが過ぎた後の写真であるということが推測できるかと思います。では、写真に写っているチョコレートはこのままだとどうなるでしょう

S: 廃棄されてしまう

T: それはいったいなぜ?

S: 賞味期限がやってくるから

T: そうですね。廃棄されてしまうことが予想できる。では、なぜ、チョコレートメーカーはごみになってしまうかもしれないのに、製品を大量に作って売るのがか。

T: ワークシート①に、予想を書いてみてください。どうぞ。

S: (話し合う、記入する)

T: では、少しだけ予想を聞いてみたいと思います。○○さん予想を教えてください

S: バレンタインというイベントで大きな収益をあげられるからたくさん作っている

T: ありがとうございます。皆さんの記述を見て回ると、だいたいの人たちが「利益を上げたいから」というところに気づいてくれたのかなと思います。

T: では、こちらを見てください。売買による利益の上げ方をこのように示してみました。利益を大きくするにはどうしたらいいでしょうか。

T: 利益を出すには、売価を高くして、生産コストを下げればよいですね。具体的にはどうしたらよいでしょうか。

S: 入れる箱を豪華にしたらよい

T: 高級そうにするってことかな。他にはありますか

S: 品質が良くないと売れないから、品質を上げる

T: では、コストを下げるにはどうしたらよいかな

S: 外国の材料を使う、材料費を安くしたらよい

T: そのような手法が考えられますね。では、これまでの内容を踏まえて、教科書の内容に触れてみましょう。教科書 p.45 「産業社会の成立」を読んで、内容を確認してみましょう

S: (教科書を読む、内容を周囲の人と共有する)

T: 配布資料「チョコレートを取り巻く社会問題」の内容と照らし合わせて、共通している内容をワークシートに記入してみてください。

S: (ワークシートへの記入、周囲の人と話し合う)

T: ワークシート③に書いたことを教えてくださいなと思います。お願いします

S: 子どもが労働力として使われ、過酷な環境で働かされている

S: 森林が減少している

T:ありがとうございます。安い賃金で働かすという点や環境を無視するという側面が共通しているということが分かったのではないかと思います。

T:産業革命で到来した社会構造で、雇う側と雇われる側の関係性が発生した。これを何というだろうか。

S:資本主義

T:産業資本家と工場労働者に分かれ、ここに関係が生じたことは学んだかと思えます。

T:産業革命によって発生した社会問題と現代社会が抱える問題には共通点があるというように考えられますね

T:立ち返ってみましょう。利益を創出したがために背景にある課題を無視して、大量生産を行う側面が現代社会にはあることを明らかにしました。現代に残る消費を誘発するイベントは何かないでしょうか。考えてみましょう

S:クリスマスとか

T:ケーキとか食べたりするよね。他にはありますか

S:母の日

T:プレゼントをあげたり、カーネーションを送ったりするよね。他にはありますか。

S:正月

T:おせちとか食べるよね。

T:このように消費を誘発するために創出されたイベントはたくさんあります。イベントの分だけ、メーカーは製品を作り出すし、売れ残り上等で市場に流します。背景にはコストを抑えるという名目で過酷な労働環

境が存在するのに。

T:では、もう一方の環境問題についても考えてみましょう。今から動画を流しますので、まずは見てみてください。

S:(映像資料を閲覧する)

T:今見てもらったのは、鉱物資源に関するものだったんですけど、詳しい情報が授業資料の方にあります。コバルトは、皆さんが使っているタブレット端末やスマホに入っています。これらの製品が造られつづける限り、過酷な労働環境は残るし、環境負荷だっけ続けることになります。

T:このような現状を受けて、産業社会に対してどうしていくべきでしょうか。ワークシート④にあなたの意見を記述してみてください。

S:(周囲の人と意見を共有する、ワークシートに記述する)

T:最後に、ワークシートに記述し皆さんの意見を聞いてみたいと思います。お願いします

S:できるだけフェアトレード製品を買う、再生紙のように環境に配慮した製品を取り扱う

S:植林活動やフェアトレード製品の購入を行う。

S:製品を長く使おうとする

T:皆さんありがとうございました。時間が来たのでここで終わりにします。号令お願いします

(号令)